



2015年(平成27年)  
7月24日(金)  
(旧暦 6月9日) 友引

デーリー東北新聞社  
〒031-8601 八戸市城下1丁目3-12  
☎0178-44-5111  
©デーリー東北新聞社2015

# もう一つの学校

八戸あおば高等学院から

「人と比べるのをやめ、自分ができることから始めたら、前より強くなれた気がする」。八戸あおば高等学院に通うB君(18)。「努力せずに結果を出す」自分に迷い、学校や仲間にもなじめず高校を中退。複雑な道をたどってきたが、今は大学進学を目標に掲げ、自分探しの旅に終止符を打とうとしている。(玉川那津美)

## 高校中退、大学目指す男子生徒

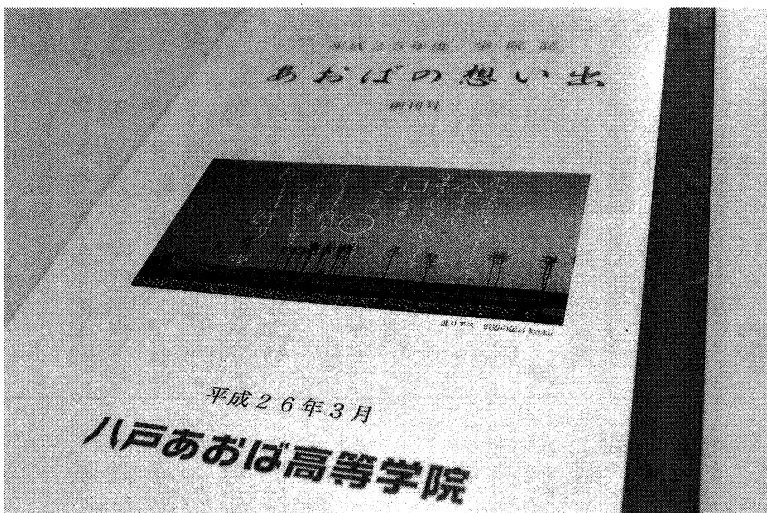
# 努力の大切さ今やっと

小中学校では、勉強も運動も人並み以上にできた。授業は真剣に聞いた記憶がない。家で教科書を開いたこともない。それでも成績は悪くなかった。

一方、学校では周囲から嫌われていると思っていた。直接的ないじめを受けたわけではない。振り返ると、自分の言動に問題があったのかもしれない。言葉遣いがよくなかったり、自分より勉強ができる同級生を悪く言ったり。人の気持ちをあまり考えなかった気がする。

■ 高校は進学校に進んだ。

## ゆっくり考える時間、機会もらえ



年に一度、卒業式の時期に合わせて刊行される学院誌

だ。硬式野球部に入部し、小中時代とは違って変わって、精神的に勉強に励んだ。ただ、相変わらず仲間とはあまりなじめなかった。人情深い野球部の顧問は、大会が近くなる

そんな生活が続き、高2の2月に学校を辞めた。退学してからは、塾や予備校に通ったが、どれも途中で辞めた。何もせず家にずっといるよりはいいだろうと、親に言われるがまま昨年10月、あおば学院に入学した。

だが最近、また昔の自分が頭をもたげている。大学受験を目指す自分、このままここにいていいのだろうか。焦り、そして「もう辞めよう」。そんな時、当時は理解できなかった野球部顧問の一言が頭の中をよぎった。

「二度物事を投げ出すと、これからはもうなるんだぞ。自分にとって厳しい言葉だった。同時に思いやりを感じた。今となっては「その通りだったな」と心に染みる。これまで、その時々々の感情に流されてきたが、今回は違う。

向上心を高めてくれる人や経験豊かな人が集まる場所に行ってみよう。それには、レベルの高い大学を目指した方がいいかなと思う。まだ就きたい仕事は見えていないが、人の心理や考え方を学びたい。

問題は、大会が近くなる。そんな自分にもユニホームをくれた。でも退部してしまった。同時に張り詰めていた糸がプツンと切れたように、今まで積み上げてきた勉強や部活、全てが崩れ落ちた。

家にこもり、ゲームをし、飽きたら寝る。そんな生活が続き、高2の2月に学校を辞めた。

これが理想を探し、いろんな場所に立ち寄った。あおば学院にいる時間は決して無駄ではない。自分のペースで学校に行けて、これからどうしたいか、ゆっくり考えられる機会と時間をもらえた。

ここまで理想を探し、いろんな場所に立ち寄った。あおば学院にいる時間は決して無駄ではない。自分のペースで学校に行けて、これからどうしたいか、ゆっくり考えられる機会と時間をもらえた。

子どもも育む

毎週金曜日に掲載

この企画への意見をお待ちしております。取材をお願いする場合がありますので、連絡先を添えてください。断りなく氏名などを紙面に掲載することはありません。宛先は、〒031-8601(住所不要)デーリー東北報道部「あおば学院取材班」へ。ファクスは0178(45)5900、電子メールアドレスはaoba@daily-tohoku.co.jp